

✕ 同窓会からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 同窓会長 堀内 行雄 (52回)



慶大整形外科同窓会長になり、既に6年が経過しました。この間、同窓会が主体で新たに行ったことは、襟章作製、同窓会員学会開催の援助、同窓会ホームページ（HP）の立ち上げと充実、叙勲を受けられた会員や米寿・高齢者会員のお祝い、慶應義塾大学新病院棟建設募金への寄付などでした。慶大整形外科同窓会役員は、更にその他の同窓会活性化策をいろいろと考えております。同窓会員が慶大整形外科同窓会に所属していて良かったと感じていただき、同窓会総会や懇親会などのイベントにも参加したいと思えるような同窓会になることを目指して様々なアイデアを出し合って検討しております。

松本教授の発案もあって、同窓会総会と教室公開セミナー、同窓会懇親会を同一の会場で行い、セミナーの演者にも参加していただいて懇親会を始める企画を昨年から行っています。また、昨年から米寿を含む高齢者のお祝いも行い、さらに2病院の「関連病院だより」を行いました。とても好評でしたので今年は4病院に拡大して行いました。

ご存知とは思いますが、慶大整形外科学教室のHPとは別に、慶大整形外科同窓会「ふるさと」のHPを2015年2月に井口 傑先生（49回）と須田康文幹事（65回）の全面的な協力で立ち上げました（<http://www.keio-med.com/furusato/>）。さらに2年前からスマートフォンでも見られるようにもなりました。同窓会員の開業している地区をマップから探せ、また新たにマップ上に自分の病院案内も載せることが出来ます。また、年配の先生には懐かしい今までの教室業績集をPDF化したものも載せています。さらに、このHPを見ていただければ、同窓会のこと、最新の教室情報も教室協議会報告などでも知ることが出来ます。

そうは申しませんが、同窓会員全員がHPをいつも見ていただけるわけではありませんし、インターネットをほとんど使用していない会員もおられると思います。慶大整形外科同窓会誌「ふるさと」の発刊は隔年になっていることから、2年に一度では情報が遅れてしまうという意見も少なからず寄せられていました。同窓会誌「ふるさと」の毎年の発刊は、教室にお任せしており、担当する教室員にかなりの労力をかけてしまいます。

しかし、情報が1年間空白になるのは好ましくないので、今回から「ふるさと」の発行をしない年には、「慶大整形外科ニューズレター」を発行することに致しました。これにより同窓会のことは勿論のこと、両教授ならびに教室幹事から1年間の教室の動向や慶應義塾大学新病院棟建設の進捗状況、日本整形外科学会の動き、新専門医制度などの慶應義塾大学整形外科学教室としての現状などをお示しいただくことも可能になります。その年の新入会員や秘書のメンバーについても毎年、紹介することも出来ます。「ふるさと」を発行しない年には、是非、このニューズレターをご活用ください。

さて、戸山芳昭名誉教授は2017年5月で慶應義塾の常任理事として、医学部全体や信濃町の新病院棟建設に深くかかわって来ました。新病院棟建設自体はほぼ順調で新1号館の建設も順調に進んでいますが、医学部関係からの寄付の集まりがなお不十分であり、2017年9月の時点で目標額の2/3をやっと越えたくらいと伺っています。戸山名誉教授は、この部門の最高責任者でもあったので、慶大整形外科同窓会としてはさらに応援していかなければなりません。募金の申し込み締め切りは2018年3月末ということですので、まだ寄付を躊躇しておられる整形外科同窓の先生方には、絶大なるご協力を何卒よろしく願います。

また慶應義塾大学医学部整形外科学教室開講100周年は、2022年（平成34年）6月16日になりますので、そろそろ記念祝賀会についても、準備をはじめなくてはならない時期にきています。日時・場所の決定から企画・立案まで、教室・同窓会にとって大きな大切な事業となります。同窓会員の皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、同窓会会員全員が結集して松本守雄教授と中村雅也教授を盛り上げ支援し、素晴らしい教室・同窓会であり続けたいと思います。それには、両教授ならびにすべての教室員・同窓会員にいろいろな方面での活躍をして戴くことが大切なことですが、同窓会としては、各地区の同窓会関連の集会や同期の集会などから、同窓会に向けて活発なご提案やご助言をいただきたいと思っています。今後とも教室と同窓会が協力して、精進して頑張っていけるようにご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

✕ 医局からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 教授 **松本 守雄** (65回)



平成27年1月に現在の立場を頂いてから3年弱が経過いたしました。2人教授制という過去に無い体制も軌道に乗り、診療、研究、教育の分野でいくつかの問題を克服しながらも教室は順調に推移していると考えております。これもひとえに、教職員、同窓会会員の皆様のご協力のおかげであり、この場をお借りして深謝いたします。

この1年間の教室内外の出来事について振り返ってみたいと思います。

1) 教室内の活動

まずは大変おめでたいこととして、平成29年4月に石井賢先生(72回)が新設された国際医療福祉大学医学部整形外科初代教授に就任いたしました。スタッフとして船尾陽生君(82回)、竹島憲一郎君(85回)が同大学に赴任いたしました。

教室内では長年腫瘍班のチーフを務めた森岡秀夫准教授(67回)が平成29年4月に東京医療センターに異動となり、二木康夫君(72回)が後任として6月1日付けで准教授に選任され、腫瘍班チーフには中山ロバート君(80回)が就任しました。また、石井賢先生の後任の脊椎班チーフは渡邊航太君(76回)が務めています。

また、1月1日付けで原藤健吾君(78回)、4月1日付けで岩本卓士君、藤田順之君(ともに79回)が新たに専任講師に選任されました。教室全体としてスタッフの陣容が若返りつつありますが、次の100年を担える人材の養成の一環として必要なプロセスと考えております。

昨年度の教室の診療および研究業績は顕著なものがありました。

診療：慶應義塾大学病院における昨年の整形外科手術数は1936件であり、大学病院本院としては日本でも随一の数であり、かつ内容も他院で対応困難な難治例、再手術例への手術、低侵襲脊椎、人工関節手術など、高いレベルの診療を行っており、病院収益にも大きく貢献しております。一方で、初診患者数が年々減少傾向であることが懸念材料です。同窓の諸先生からは多数の患者のご紹介をいただき感謝しておりますが、なおいっそうのご紹介をいただければ幸いです。

臨床研究：昨年度の英文論文数は138編を数えており、年々増加傾向です。また、医学部新聞を通じてご存じと思いますが、二木康夫君が本年医学部で最も権威ある賞である三四会賞北島賞を受賞しました。その他、各学会などでの教室員の受賞数も合計17を数えております。

最近では各臨床班が関連病院と大学が一体となり多施設研究を進めており、KEIO Groupの名前が国内外の学会や学術誌で見られる機会が増えております。関連病院と大学が人事のみならず、研究や卒後教育でもより深く結びついていく大変良い傾向と思います。また、逆に臨床のみならず研究や教育に力を入れている関連施設により多くの有為な人材を投入していくことが慶大整形全体の発展にとって必要と考えております。

各班が独自性・専門性を持って臨床、研究活動を行うことは大変良いことである一方で、高齢化社会の中で急増している加齢性運動器疾患は各パーツの問題ではなく、全身疾患として捉えていかないと適切な対応が出来ない時代になってきています（膝だけが悪い高齢者はまれで、膝も腰も、肩も悪いという方が大半です）。そこで、原藤健吾講師をチーフとして若手スタッフで班横断的研究班を立ち上げ、全身疾患としての加齢性運動器疾患研究を進めております。

また、教室の業績入力教室ホームページを通じてonlineで出来るようになりました（<http://www.keio-ortho.jp/achieve/index.php>）。ご自身および病院の学術活動成果をまとめる良い機会ですし、開講100周年に向けて教室業績をしっかりと整理していく必要がありますので、関連施設の先生方には是非、ご自身のあるいは病院の業績入力をお願いいたします。

2) 専門医制度

2017年度より日本整形外科学会が主体となり専門医養成の暫定プログラムが始まりました。あらかじめ決められたプログラムに従って4年間大学と連携施設をローテーションするプログラムで、今年は18名の優秀な専攻医が採用されました。また、加えて東京歯科大市川病院を基幹施設とするII型プログラムに1名、後期研修医3年目となる2名が加わり、合計21名の入局者がありました。プログラム制により標準的な知識と技能を持つ整形外科専門医の育成が期待されますが、一方で、これまでより関連施設の人事が硬直化することは不可避ですので関連施設の先生方にはご理解をいただければと思います。平成30年度からは日本専門医機構が運営する本格的な新専門医制度が正式にスタートする予定です。機構や日整会の方針もあり、東京歯科大市川病院に加え、東京医療センター、静岡赤十字病院、宇都宮赤十字病院を基幹施設とするII型プログラムも作成しております。専門医制度は人材獲得の面では都会にある大学病院は不利ですが（都会では過去の実績以上は採用できないルールです）、組織はあくまで人が基本ですので、関連病院と一体となった人材獲得とその養成に努めたいと思います。

3) 医学部・大学病院

5月13日には医学部開設100周年祝賀行事が内外のゲストをお招きして盛大に行われました。また、来年5月の新病院棟稼働に向け、工事も院内の準備も急ピッチで進んでおります。8年間にわたり慶應義塾常任理事を務められた戸山芳昭名誉教授は5月に退任され、後任として前病院長の竹内勤教授が常任理事に就任されております。医学部は10月から皮膚科の天谷雅之教授が医学部長、病院は8月から一般外科の北川雄光教授が病院長となり新しい体制での運営が始まっております。私事ですが8月から副病院長に任命され、手術センター、救急センター、特殊病床運営、国際問題の担当をしております。

4) 日本整形外科学会など

日本整形外科学会は5月に丸毛啓史理事長から山崎正志新理事長（前副理事長）の体制となりました。山崎理事長は、新専門医制度の本格運用への体制構築、ロコモティブシンドロームの認知度の向上、政策対応が可能な症例登録制度の構築を就任の際の方針に掲げております。副理事長は3名体制で、大川敦、三上容司副理事長が留任、私が新たに副理事長に選任され、学術集会運営やプロジェクト研究採用、症例データベース構築などを担当しております。重責と思いますが本邦の整形外科の発展のために努力したいと考えております。

5) 今後

来年5月に稼働する新病院棟では気持ちも新たにして活発な診療活動を展開して、整形外科の病院内でのプレゼンスを向上させ、慶應病院の運営に貢献し、なにより運動器疾患に悩む患者の方々のお役にたてるよう教室一丸となって取り組みたいと思います。

教室は2022年に開講100周年を迎えます。すでに5年を切った状況ですので、同窓会とも相談しながら少しずつ準備を始めて行く必要があると考えております。また、2023年に横浜で行われる予定の日本整形外科学会学術総会開催に手を上げる予定でおります。

個人情報保護法改定に伴う倫理指針の改定、臨床研究法の成立、公的あるいは企業研究資金の減少など大学で臨床研究を行う環境さらには教室運営そのものも厳しさを増していますが、教室の活動は低下させることなく、むしろこれを好機と捉え、次の100年に向けた土台作りに邁進したいと思っております。

教室・同窓の先生方には是非ともご協力・ご支援を頂ければ幸いです。



戸山芳昭前教授からバトンを受けてはや3年弱が経過しました。これまで教室の研究を「老化、再生、スポーツ・外傷」のキーワードのもとに推進してきました。

昨年の「ふるさと」に記載した内容からの進捗状況を報告させていただきます。

1) 教室の基礎研究の現状

整形外科教室の研究体制は、整形外科運動器科学研究室、総合医科学研究所（リサーチパーク）の生体工学・歩行解析研究室（6N6）、筋代謝・再生研究室（4N8）、脊髄再生研究室（5S7）の4つの研究室からなります。

運動器科学研究室では、骨代謝、関節軟骨、靭帯、椎間板、末梢神経など非常に多岐にわたり、学内外の基礎教室、製薬企業、ベンチャー企業等との産学連携で共同研究を進めています。特に椎間板研究では新たなシーズの特許承認も得られ、いよいよ慶應義塾の椎間板再生創薬の臨床研究が近く開始できる見込みになりました。また、上肢班の人工神経や下肢班の関節軟骨再生、靭帯再生研究も少しずつ結果が出始めています。

生体工学・歩行解析研究室では、放射線診断科と連携したデジタル画像データとバイオメカ融合、さらに解剖学教室 Clinical Anatomy Laboratoryとも連携した世界に類をみない次世代のバイオメカ研究室を構築してきました。この秋からいよいよ立位CTの撮像も始まり、世界初の運動器の荷重位での評価が可能となりました。これらの新しい画像データの解析により、新たな診断基準や治療法の開発に繋がることを期待しています。

筋代謝・再生研究室では、佐藤製薬との共同研究として加齢性筋萎縮症の病態の解明と新たな治療法の開発を目指して研究を行い、幾つかの創薬ターゲットを明らかにすることができました。今後、これらの中から一つでも臨床応用に繋がることを期待しています。

脊髄再生研究室では、脊髄再生医療の実現を目指して橋渡し研究を継続しています。急性期脊髄損傷に対する肝細胞増殖因子の治験も佳境を迎え、今年度中には終了する予定です。次年度には本治験の解析結果を報告できると思います。また、脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経幹細胞移植の臨床研究は、今年度中の開始予定でしたが、京都大学iPS細胞研究所で樹立した臨床用iPS細胞の問題が発覚し、1年近く遅れることになってしまいました。非常に残念ではありますが、粛々と臨床応用に向けて、確りとした準備を進めていきたいと思っています。

2) 医学部および慶應義塾における研究の動向

平成29年10月より医学部執行部が新体制となり、天谷新医学部長から新たに6名の学部長補佐が任命され、私も執行部の一員に加えて頂きました。また、病院執行部に松本教授も副病院長として加わったこともあり、これからも2人で協力しながら慶應義塾大学医学部・病院を盛り上げていきたいと思っております。

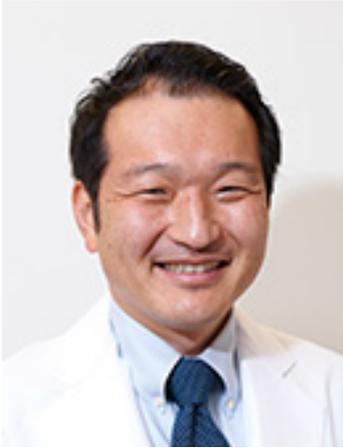
私は学部長補佐として産学医連携・広報を担当することになりました。慶應義塾医学部が持つ数多くの素晴らしい研究成果を、一日も早く患者さん、さらには国民に届けるためには、企業との連携が今後益々重要になってきます。しかし、慶應義塾医学部における産学連携の体制は、旧帝大と比較して極めて脆弱です。この状況を打開するためにも、産学連携を推進するための核となる新たな組織作りを三田と連携しながら進めて行く方針です。

なかでも、今年10月に開所を迎えたJKiC (JSR-Keio Innovation Center) はその中心になります。本事業は4つの基盤領域からなり、その一つであるDesigned Medical Deviceでは整形外科と放射線診断科が中心となって、前述のバイオメカ・再生医療と放射線診断科の新たなイメージング技術の融合プロジェクトを推進しています。本領域には実現可能性の高いシーズが整形外科を中心に数多くあります。この中から一日も早く社会実装に繋がる成果を出すことが、今後慶應医学部における産学連携を加速するために最も重要な点だと考えています。

また、慶應義塾が国際化への取り組みとして、川崎市殿町（医療イノベーション国家戦略特区）に展開する仮称リサーチコンプレックス事業（世界に誇る社会システムと技術の革新で新産業を創るWellbeing Research Campus “Tonomachi”）が、本格的に稼働し始めました。本事業では慶應義塾が中核機関となり慶應義塾殿町キャンパスを新設し、東京大学、東京工大、横浜市大などのアカデミアに加えて、多くの企業と連携しながら、医療イノベーションを生み出す国際的な拠点を創出する計画です。本事業の運営にも関わらせて頂きながら、整形外科としても、iPS細胞を用いた脊髄再生医療とロボットスーツHALを用いたニューロリハビリとの融合研究、超高齢者コーホート研究（運動器健診）で参画させて頂いております。この拠点を足掛かりにして、整形外科学教室がより一層発展できるよう尽力していきたいと思っております。

教室の基礎研究も少しずつ梶を切りながら、上肢班・下肢班・脊椎脊髄班・腫瘍班のいずれの班に対しても物心両面で支援して行きたいと思っております。そして、何よりも怪我や病気に苦しんでいる患者さんを一人でも多く救えるような臨床に繋がる成果を世に出して行きたいと思っております。その結果として、次の慶應医学の100年を担えるような人材を育て、医学部や病院、さらには慶應義塾の発展に寄与できるような整形外科学教室にして行きたいと思っております。今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

慶應義塾大学整形外科 教室幹事 **渡邊 航太** (76回)



本年3月より、二木康夫先生(72回)の後任として慶應義塾大学整形外科教室幹事を拝命した76回生の渡邊航太と申します。この度「慶大整形外科ニュースレター」創刊の機会をお借りして、紙面にて恐縮ですが着任の挨拶をさせていただきます。

私は平成9年に慶應義塾大学医学部を卒業して慶應義塾大学整形外科に入局しました。その後、国立埼玉病院(現国立病院機構埼玉病院)、大田原赤十字病院(現那須赤十字病院)、総合太田病院(現太田記念病院)に勤務しました。平成17年から1年間の米国留学を経験し、戸山芳昭前教授のご配慮で、平成18年に慶應義塾大学整形外科助教の立場で帰局させていただきました。気づいてみるとすでに帰局後10年以上が経過し、月日の過ぎる早さを実感しております。

私の医局長としての任務は、「医局員が和を以て貴しとなす」となれるように、両教授と医局員の皆様を陰から支えていくことです。ご存知の通り、今年4月から暫定の専門医制度が始まりました。来年度の4月から正式に開始します。初めての制度でありますので現場で混乱が生じる可能性もあり、それを未然に防ぐ対策としてメンター制度を設立しました。専門医制度における専攻医は、従来のように入局にはなりません。4年の研修期間後に我々の仲間になるかどうか決めることになります。このメンター制度は職場での悩み等を、近い立場の医師が、問題の根が浅いうちに摘み取り対応することで、より実りの多い研修を積んでもらうための制度です。是非、先生方のご協力をお願いいたします。

また、昨今、諸事情で若くして退局する先生方も多くおります。背景は様々ですが、少しでも多くの医局員の先生方に満足していただける人事を心掛けたいと考えております。そのため、先日、若手から中堅の先生方に対して進路調査を行いました。是非、その結果を基に、より良い人事を心掛けたいと思います。今後、医局員のメーリングリストの作成等を計画しております。少しでも医局員の繋がりを太くして、仲の良い(和)医局づくりに貢献できればと思っております。

私は今までに大谷俊郎先生(59回)、池上博泰先生(64回)、須田康文先生(65回)、森岡秀夫先生(67回)、二木康夫先生(72回)の医局長時代を経験してきました。どの先生も医局長の資質、風格とカリスマを併せ持った先生方で、私に医局長の大任が務まるかどうか不安な面もありますが、副医局長の岩本卓士先生(79回)と協力しながら、二人でこの大役を全うさせていただきたいと思いますので、是非、教室運営にご協力いただけましたら幸いです。

✂ 新入局者の紹介



いしくら かよこ
石倉 佳代子

生年月日 1991年3月24日
出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の石倉佳代子と申します。初期臨床研修を川崎市立川崎病院で行い、そこで整形外科を回った際に手術から保存療法、後療法と幅広く治療分野を持ち患者さんのQOL上昇に関与できることに興味を持ち入局を決めました。

その後も半年間同院で後期研修として外傷を中心に初診から手術の執刀、術後経過を診させて頂きました。悩むことも多かったですが指導医の諸先輩方や周囲の環境に恵まれ、とても充実した半年間を過ごすことができました。今後も知識や実力をつけ、教えて頂いた先輩方のように後輩に正しく教育できるような整形外科医になりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

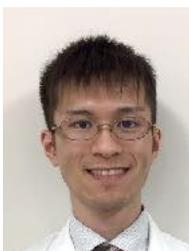


いとう けいたろう
伊藤 啓太郎

生年月日 1990年5月18日
出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の伊藤啓太郎と申します。学生の頃は、アイスホッケー部に所属しており、6年間部活動に励んでおりました。

整形外科を専門とした理由は、ダイナミックな手術から内視鏡手術まで幅広く、手術の種類も多かった事や運動器の解剖や機能に興味があったからです。整形外科1年目で不安な事も多々ありますが、これから多くのことを学び、手術の腕を磨いて患者さんに還元できるよう頑張りたいと思います。整形外科での専門領域も多くの手術を経験して考えていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



さとう たいき
佐藤 大輝

生年月日 1991年3月17日
出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の佐藤大輝と申します。大学時代は管弦楽団に所属しホルンを演奏し、卒業後も社会人オーケストラに所属して活動を続けておりました。

私が整形外科を選んだ理由は整形外科の手術が機能を回復するための手術であり、患者さんの生活の質の改善に貢献できることにやりがいを感じたから、そして稲城市立病院での研修医時代にお世話になった慶應整形の先輩方が非常に生き生きと医療に取り組んでいらっしゃったからです。

10月からは那須赤十字病院へ出向し、多くの症例を担当・執刀し、先輩方そして患者様から学ばさせていただいております。一例一例を大切に、少しでも早く一人前の整形外科医になれるよう精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



なかむら たくみ

中村 匠

生年月日 1990年4月17日

出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の中村匠と申します。慶應義塾大学病院に現在勤務しております。慶應義塾大学を卒業した後、川崎市立井田病院で2年間初期臨床研修をさせていただきました。井田病院では外傷を中心に、肩関節鏡や人工関節の手術にも参加させていただきました。研修を通して、QOLを改善するという整形外科の楽しさ、疾患や治療のバリエーションの豊かさを感じることができ、整形外科の道へ進むことを決意いたしました。

大学時代は軟式テニス部に所属しており、最近はゴルフやフットサルをしています。また温泉も好きで、休日によく行っています。未熟者ですが、精一杯頑張っていきたいと思っております。御指導御鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



はたけやま たくと

畠山 拓人

生年月日 1989年6月26日

出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の畠山拓人と申します。整形外科1年目として、多くの症例から学び、吸収していきたくて思っておりますのでよろしくお願い致します。大学時代はアメリカンフットボールに勤しみ、日々筋トレと練習に励む一方で怪我も多いスポーツなので自然と整形外科には興味を持っておりました。私が最終的に整形外科を選んだ理由は、大学卒業後に済生会宇都宮病院にて研修している際、素晴らしい先生方に出会い、多くの外傷を見ていくにつれて整形外科が面白く社会的な必要性も高いと感じたからです。整形外科医として患者様に貢献できるよう頑張りますのでご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



やまのうち けんと

山之内 健人

生年月日 1991年3月31日

出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の山之内健人と申します。私は、スペシャリストを育成するという慶應義塾整形外科学教室の理念に惹かれ、入局を決意しました。自分自身がスポーツ外傷で手術を受けた経験から、スポーツに興味がありました。しかし、大学病院で様々な疾患を経験する中で、各分野においてスペシャリストとして活躍する先輩方に憧れるようになりました。整形外科には変性疾患や外傷、腫瘍など様々な分野が存在しますが、その中でもこれだけは負けないという得意な領域を見つけ、スペシャリストになりたいと思っております。精一杯頑張りますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



よねざわ よしろう

米澤 嘉朗

生年月日 1988年3月9日

出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の米澤嘉朗と申します。静岡赤十字病院に現在勤務しております。北海道の北見赤十字病院で2年間初期研修を行い、整形外科に興味をもちました。北東の果ての三次救急病院で、最寄の大学病院まで180km、冬場は道も凍結し、怪我してしまった患者さんは他に行くところがないという環境での整形外科はとてもやりがいがあり、そのまま後期研修医として残り、外傷手術に夢中になりました。4年間も北の果てで過ごした後ですが、限られた環境にいただけではけして出会えない先生方の手術や医療を勉強するために、ようやく今年母校に戻って参りました。大学時代は剣道部で、今はゴルフとボウリングが休日の楽しみです。好きな骨は腰椎と骨盤です。御指導御鞭撻の程、よろしくお願い致します

平成29年度新入局者の米澤嘉朗と申します。静岡赤十字病院に現在勤務しております。北海道の北見赤十字病院で2年間初期研修を行い、整形外科に興味をもちました。北東の果ての三次救急病院で、最寄の大学病院まで180km、冬場は道も凍結し、怪我してしまった患者さんは他に行くところがないという環境での整形外科はとてもやりがいがあり、そのまま後期研修医として残り、外傷手術に夢中になりました。4年間も北の果てで過ごした後ですが、限られた環境にいただけではけして出会えない先生方の手術や医療を勉強するために、ようやく今年母校に戻って参りました。大学時代は剣道部で、今はゴルフとボウリングが休日の楽しみです。好きな骨は腰椎と骨盤です。御指導御鞭撻の程、よろしくお願い致します



わかばやし としき

若林 俊輝

生年月日 1990年8月13日

出身大学 慶應義塾大学

平成29年度新入局者の若林俊輝と申します。慶應義塾大学病院に現在勤務しております。私は大学卒業後の初期研修を日野市立病院で行って参りました。整形外科の選択期間は数ヶ月というわずかな期間でしたが、手術や学会参加などの貴重な機会を頂き、慶應の医局の先生方のもとでこれからも学ばせていただきたいと思いい入局を決めました。

平成29年度新入局者の若林俊輝と申します。慶應義塾大学病院に現在勤務しております。私は大学卒業後の初期研修を日野市立病院で行って参りました。整形外科の選択期間は数ヶ月というわずかな期間でしたが、手術や学会参加などの貴重な機会を頂き、慶應の医局の先生方のもとでこれからも学ばせていただきたいと思いい入局を決めました。

私は大学の頃よりサッカー部でキーパーをやっておりまして、整形外科のサッカー部にも今年の4月より参加させていただいております。臨床でもサッカーでも結果を出せるように努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。



いづか あい

飯塚 藍

生年月日 1990年11月9日

出身大学 北里大学

平成29年度新入局者の飯塚藍と申します。慶應義塾大学病院で初期臨床研修を終え、慶應義塾大学整形外科学教室へ入局させて頂きました。半年間の大学研修後、現在足利赤十字病院へ出向させていただいております。

足利に来て1カ月弱ですが、何件か執刀させていただき、上司の先生方にも恵まれ、充実した研修生活を送っています。しかし、手術中にパワー不足を感じる事が多々あり、病院の地下のトレーニングルームで筋トレを始めました。頂いた機会を生かせるように、しっかり筋力をつけたいと思います。なかなか運動する機会が持てませんでした。今年、東日本整形災害外科学会の駅伝大会に参加することができました。また、先日病院のバレーボール部に入部しました。

平成29年度新入局者の飯塚藍と申します。慶應義塾大学病院で初期臨床研修を終え、慶應義塾大学整形外科学教室へ入局させて頂きました。半年間の大学研修後、現在足利赤十字病院へ出向させていただいております。

スポーツが好きで整形外科医を志したので、仕事と併せて頑張りたいと思います。至らない点が多々あるかと存じますが、御指導御鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。



うたしま あつし

歌島 淳

生年月日 1985年2月24日

出身大学 弘前大学

平成29年度新入局者の歌島淳と申します。現在伊勢原協同病院で勤務しております。スポーツ医学を志し、早稲田大学スポーツ科学部を卒業しました。より医療に特化してスポーツに携わりたいと思い医師となり、現在整形外科医として走

り出しました。

まだまだ、未熟ではありますが、一つ一つの症例から学べることを大切に、一人一人の先生方からの教えを受け止めながら早く一人前になれるように頑張ります。いつか、専門はスポーツですと胸を張って言えるようになるまで、そしてそれ以前に、胸を張って整形外科医ですと言えるように日々精進します。



おかだ よしふみ

岡田 善史

生年月日 1986年10月29日

出身大学 熊本大学

平成29年度新入局者の岡田善史と申します。現在慶應義塾大学病院で勤務しております。出身は大阪で大学は熊本大学、初期研修を熊本大学と宮崎にある県立延岡病院で研修いたしました。田舎の市中病院ということもあり、外傷を主にみて

いました。大腿骨頸部骨折や転子部骨折、鎖骨骨折などの手術も経験させてもらいました。手術をした患者さんが元気に退院するのを見て、患者さんのQOLに直結する整形外科という仕事にやりがいを感じ整形外科医になろうと決めました。

まだ整形外科医として学ぶことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんがよろしく願いいたします。



かみかわ まさとし

神川 正俊

生年月日 1991年1月27日

出身大学 日本医科大学

平成29年度新入局者の神川正俊と申します。国立病院機構栃木医療センターに現在勤務しております。日本医科大学を卒業した後、初期臨床研修として1年間を横浜市立市民病院、残りの1年間を慶應義塾大学病院で働かせていただきました

た。学生の頃から多彩な手術を行うことのでき、雰囲気の良い整形外科に憧れて整形外科医になろうと考えました。現在国立病院機構栃木医療センターで勤務し、実際に学生、研修医の時に感じていた通り多彩な数多くの症例に触れることができ忙しさとともに手術の楽しさを感じ、整形外科に入ってよかったと思っています。中学、高校、大学時代は硬式テニス部に所属していました。走ることが好きでマラソンのドクターランナーも経験したことがあります。未熟者ですが、精一杯頑張っていきたいと思えます。御指導御鞭撻の程、よろしく願いいたします。



さいじょう ゆうすけ

西條 裕介

生年月日 1988年10月26日

出身大学 杏林大学

興味を持っておりました。その後もラグビー部での怪我で幾度となくお世話になり（骨折、打撲など…）何かの縁を感じ気づいたらこの道を志しておりました。慶應大学に選んだ理由としては、研修時代の先輩の一言がきっかけで1日見学したことでした。実際働きはじめ、改めて上のつながり、横のつながりの大切さを実感しました。

まだまだ未熟者ではありますが、自分に甘えず頑張っていきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。

平成29年度新入局者の西條裕介と申します。出身大学は杏林大学でラグビー部に所属しておりました。初期研修は千葉県亀田総合病院で2年間研修をいたしました。幼い頃より母親がTHAの手術を繰り返し行われていたことから整形外科に



すえまつ ゆう

末松 悠

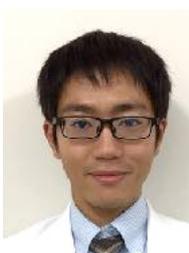
生年月日 1990年1月29日

出身大学 東邦大学

工関節の手術を中心に勉強させて頂き、また外傷症例も多く経験させて頂きました。整形外科を研修し、身体機能を改善させることが出来る機能外科のやりがいと整形疾患の多様性と手術の奥深さを感じ、整形外科医になることを決めました。

大学時代は硬式庭球部に所属し、テニスの日々に明け暮れました。整形外科の道に進んでも、大学時代で培った体力を活かして日々精進していければと思っております。整形外科としてはまだまだ未熟者ですが、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

平成29年度新入局者の末松悠と申します。現在慶應義塾大学病院で勤務しております。出身大学は東邦大学で、6年間の学生生活を経た後、神奈川県警友会けいゆう病院で2年間初期臨床研修を行いました。けいゆう病院では脊椎疾患や人



たてやま こういち

立山 宏一

生年月日 1986年4月24日

出身大学 浜松医科大学

ン、ロードバイクを初め、たまにトライアスロンの大会に出場させていただいております。現在足利赤十字病院で忙しく働かせていただいております。

外傷中心に色々な手術に入らせていただき、執刀医としてだけでなく、助手として手術に参加するときも日々新たな発見もあり、楽しく勉強させていただいております。専攻はすでに下肢班を選ばせていただいております、外傷に加え、人工関節にも強く興味を持っております。様々なものを吸収して、日々成長していこうと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

平成29年度新入局者の立山宏一と申します。臨床研修の二年間を終え、さいたま市立病院整形外科で二年間勤務させていただいた後に、慶應義塾大学に入局させて頂きました。大学時代は水泳部に所属しており、社会人になってからマラソ



たなか のぶゆき

田中 信行

生年月日 1990年4月16日

出身大学 秋田大学

かと考えております。

初期研修で国際医療福祉大学三田病院にお世話になり、先生方の人柄、仕事をしている姿に感嘆し、慶應義塾大学整形外科に入局させていただきました。右も左もわからず、上の先生方には迷惑をかけっぱなしで恐縮ですが、精いっぱい頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成29年度新入局者の田中信行と申します。出身地は東京都多摩市です。

学生時代は剣道部に所属し、部活動に明け暮れておりました。体を動かすことが好きですが、剣道をやる場所があまりなく、最近新しいスポーツを始めよう



たにぐち ふみのり

谷口 文則

生年月日 1977年12月12日

出身大学 神戸大学

ました。先生方から熱心にお誘い頂き、慶應整形に入局させて頂いたこと大変嬉しく思います。趣味はバスケットボール、野球観戦、飲み会です。

今年、慶應整形は日整会のバスケットボール3on3で優勝しましたが、来年以降の連覇に微力ながら貢献できればと思います。諸先輩方に少しでも近づけるよう精進いたしますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

平成29年度新入局者の谷口文則と申します。工学部を卒業後に自動車会社勤務を経て医学の道に入りました。自動車会社では最近流行りの自動運転関連の安全システム開発に従事していましたが、思う所あり医学の道に入り整形外科を志し



なかむら もとのり

中村 元紀

生年月日 1989年11月9日

出身大学 関西医科大学

過ごしておりました。関西医科大学を卒業後、国立相模原病院で初期臨床研修を修了いたしました。整形外科を研修した期間はわずかでしたが、他科研修中にも整形外科的な合併症を抱える患者さんの多いことに驚き、広く人の役に立ちたいとの思いから整形外科を志望いたしました。常に「やる気」を胸に研鑽を積みたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

平成29年度新入局者の中村元紀と申します。このたび整形外科専攻医として学ばせていただくことになりました。出身地は駒込で、ソメイヨシノ発祥の地として知られております。大学時代は大阪の地で、趣味の柔道に打ち込みつつ自由に



まえだ こうすけ

前田 康介

生年月日 1988年7月20日

出身大学 愛媛大学

平成29年度新入局者の前田康介と申します。現在慶應義塾大学病院で勤務しております。群馬県前橋市出身で高校までは群馬県、大学は愛媛大学で学ばせて頂きました。愛媛大学を卒業後、荻窪病院で2年間初期研修をさせて頂きました。

荻窪病院では手・足・脊椎と幅広く整形外科疾患を学ばせて頂き、機能再建に魅力を感じ整形外科を志望致しました。

学生時代はバスケットボール部に所属しておりました。今でも時折バスケットボールをしており、今後も続けていきたいと考えております。バスケットボールで培った体力を生かして、今後も整形外科の研鑽に努めていきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



まつもと しょうご

松本 将吾

生年月日 1990年10月17日

出身大学 東京医科大学

平成29年度新入局者の松本将吾と申します。現在東京歯科大学市川総合病院整形外科で勤務しております。大学時代は剣道部で活動しており、最近は近くの河川敷にサイクリングに出かけるのが趣味となっております。

私は慶應義塾大学整形外科学講座の2型研修として、東京歯科大学市川総合病院を基幹病院とする研修プログラムの1期生として、入局させて頂きました。大学の関連病院所属という変わった形での研修スタートですが、現在は脊椎、腫瘍、外傷などの診療をメインに、日々新しいことを学びながら楽しく働いております。

慶應義塾大学病院には3年後からお世話になりますが、その際はご指導のほど何卒よろしくお願ひいたします。



みずこし りょう

水越 諒

生年月日 1988年8月17日

出身大学 日本大学

平成29年度新入局者の水越諒と申します。湘南鎌倉総合病院で初期研修を終え、今年より慶應義塾大学にてお世話になっております。

湘南鎌倉総合病院は救急が有名な病院で、たくさんの症例をみさせて頂きました。

骨折など外傷の患者様が多くいて興味がわき、整形外科の道に進みました。かなり忙しい病院での研修だったので、その経験を活かせればと思っております。また、学生時代は野球部で投手をしており、肩をよく痛めて整形外科を受診していたこともあり、スポーツも含め患者様の症状に介入できればと思っております。

まだ経験の浅い私ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

✂ 秘書紹介

	担当	メールアドレス
• 高井 由香	松本教授室	takai_yuka0351@yahoo.co.jp
• 青野 めぐみ	中村教授室	aono61625@gmail.com
• 木田 彩香	医局	ayakakida112@yahoo.co.jp
• 北岡 祐美	医局	yumiyumi10110019@gmail.com
• 西川 綾子	医局	paris416@keio.jp
• 山西 由佳利	脊椎班	keiospine@gmail.com
• 宮崎 真規子	脊椎班	makikomiyazaki01@gmail.com
• 北野 瑛莉	脊椎班	erikitano0728@keio.jp
• 鹿島 美由紀	上肢班	hand.kashima@gmail.com
• 鈴木 照美	膝足班	suzukiterum@gmail.com
• 山岸 麻衣	股関節班	m.yamagishi.hipssecretary@gmail.com
• 樋川 英理子	腫瘍班	eriko.hikawa0517@gmail.com
• 林 綾子	業績	ayako.z2@keio.jp
• 山下 朱美	バイオメカ	sumi@a5.keio.jp

編集後記

本年から「慶大整形外科ニュースレター」が、「ふるさと」の発刊されない年に発行されることになり、今回はその記念すべき創刊号となります。内容やレイアウトを含め何も決まっていませんでしたが、なんとか無事に同窓会会員名簿とともにお届けすることができて一安心しております。一部の内容は来年発刊予定の「ふるさと」と重複するかと思いますが、ご了承いただければ幸いです。

別件になりますが、松本教授からのごあいさつにもあった通り、教室では論文・発表・書籍の業績をオンラインで集積しております (<http://www.keio-ortho.jp/achieve/index.php>)。教室の開講100周年に向けて業績を整理する必要がありますので、同窓会の先生方の積極的なご協力をお願いいたします。何かご不明な点がありましたら、お気軽に業績担当 (keiogyoseki@gmail.com) もしくは私松村 (noboru18@gmail.com) までご相談下さい。どうぞ宜しくお願いいたします。

松村 昇 (81回)